企業と証券アナリストの対話の実例シリーズ［第5回］

新時代に求められるアナリストの
ビッグチャレンジとイノベーション

松　島　憲　之 CMA

目　　　　　次

１．はじめに
２．アナリスト苦難の時代に求められるビッグチャレンジ
３．証券アナリストの役割と非財務情報
４．重要性を増す統合報告書とESG投資
５．アナリスト活動の基本
６．投資家動向と課題
７．非財務情報の活用方法
８．新しい分析手法へのチャレンジ

規制強化でアナリストは公開情報をベースとした分析にシフトせねばならなくなった。今後は、生き残りをかけたイノベーションを起こし、新しい分析手法に積極的にチャレンジして、In-depthレポートを書く必要がある。企業の価値創造プロセスを構築している非財務情報の中から、株式市場が求めるESG情報などの企業分析への活用、特許情報などの公開されたビッグデータの分析の有用な実用化など、新しい流れが起きている。

１．はじめに

証券会社のシンクタンクを皮切りに、1982年から31年間証券アナリストの仕事を続けたが2013年に現役を引退し、これまで長年培ってきたノウハウと経験を生かして、今は後輩のアナリストの指導･教育を行うコーチ業に専念している。最近は、様々な規制強化の影響で、証券アナリストの仕事が昔に比べてやりにくい時代になったことを切実に感じる。ただし、それを言い訳にして中途半端な分析活動しかできないのではアナリスト失格であり、企業の価値創造プロセスを構築している重要な非財務情報の中から、株式市場が新たに求めているESG（環境、社会、ガバナンス）情報などをうまく企業分析に活用するアプローチを教え、更に公開されているビッグデータなどの分析を有用に実用化する新手法の開拓にチャレンジし、新時代の証券アナリストの役割変化とその実践を日々考えている。

松島　憲之（まつしま　のりゆき）

三菱UFJモルガン・スタンレー証券　エクイティリサーチ部チーフリサーチアドバイザー。1982年同志社大学経済学部卒業後、日興証券入社。同年日興リサーチセンターに配属。陸･海・空運、その他製造、非鉄金属、医薬品、食品、精密機械のリサーチに従事。91年より自動車業界を担当。日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会前座長、日本IR協議会企画委員。経済産業省持続的成長に向けた長期投資（ESG･無形資産投資）研究会委員。